

2020年9月27日(日) 近畿旧友会ハイキングクラブ「燦歩会」例会 (第495回)  
その時アナタはどうする！！大阪防災体験ツアー (大阪)

コロナ禍を避けて休止していたため、実に半年ぶりの例会です。  
関東大震災から間もなく1世紀。阪神大震災、そして東日本大震災、今後起きる事が  
予想される首都直下型地震、南海トラフ巨大地震など、9月は防災を考える時。  
大阪市内2カ所の防災体験ポイントを巡ります。

スタートは大阪Metro阿波座駅。10時。薄曇り。  
参加は14名(男性10、女性4)です。  
まず駅出口に隣接の「大阪府津波・高潮ステーション」です。  
体温測定と手指の消毒をして入ります。



この施設は淀川や安治川、木津川などの河川の水門を遠隔管理する拠点で、  
展示では大阪湾の津波・高潮への備えを呼びかけています。  
今は海から遠くなっていますが、江戸時代までは海と川の水がひたひたと打ち寄せる  
低湿地帯で、「難波の堀江」と呼ばれていました。  
大阪市のマークが水路標識の「濤標(みおつくし)」なのもそのためです。

近代の地盤沈下で、大阪市西部のこの辺りは海面より低いゼロメートル地帯が多く、  
高潮、津波の脅威が一層増しています。災害のメカニズム、被害規模、被害区域などが、  
強烈な音響・映像と共に、ドラマ仕立てで紹介されていました。



以前大阪大正区を燦歩した時にしばしば見かけた頑丈な  
防潮扉です。産業や生活のためには、海・川に通じている  
事が必要ですが、いざと云う時は高潮・津波の水を遮断し  
なければなりません。大阪市にはこのような防潮扉が  
353基、巨大な水門が8か所にあるそうです。  
防潮扉は手でハンドルを回すと、スムーズにスライドしま  
したが、緊急時に数多くの防潮扉を閉めるのは、困難さが  
想像されます。



津波災害の教訓を後世に伝えるための石碑  
「大地震 両川口 津浪記」についても紹介  
されていました。碑文は1854(嘉永7・  
安政元)年11月4日、5日の津波の様子を  
記し、それを忘れないために毎年文字に墨を  
入れて守り伝える事を後世に託しています。

そしてこの事は、今も年中行事として地元の方に守られているのです。この碑の実物は、以前「大阪マラソン」のコースを歩いた時に見学した事があり、また大阪大正区を歩いた際のレポートにも記しました。碑文の概要を文末の「補足」に再掲します。

次に立ち寄ったのも、その様な水辺ゆえに物語の生まれた所です。

「和光寺」と呼ぶよりは、通称の「阿弥陀池、阿弥陀が池」の方が良く知られているのではないのでしょうか。

寺は1698（元禄11）年に創建されますが、それ以前から仏教伝来の聖地として信仰を集めて来ました。それが阿弥陀池の物語です。

6世紀中頃、百済から日本に仏教が伝えられます。それを受け入れようとする蘇我氏と排斥しようとする物部氏、豪族たちの間で大きな争いになります。折から悪疫が流行したため排仏派の物部氏の進言により、百済伝来の日本最初の仏像は「難波の堀江」に沈められます。（日本書紀欽明天皇条）後に推古天皇の時代、それを池中から救い上げたのが信濃国の本田（本多）善光で、その仏像はやがて信濃の善光寺に本尊として祀られる事になります。池は「善光寺如来出現の地」として阿弥陀池と呼ばれるようになり、池の水も霊水として大切にされたそうです。

広大な境内には、寄席・芝居小屋・見世物小屋が開かれ、また富くじや植木市も名高く、大いに賑わったという事です。池は、幕末期の大坂の名所を描いた「浪華百景」の光景そのままに、ビル街の狭間に佇んでいました。

なお、物部氏が仏像を沈めた場所については、奈良の飛鳥など諸説があります。また「阿弥陀が池」には余談もありますが、文末の補足に譲り先を急ぎます。



ここからはやや東にルートをとって、最終目的地の阿倍野に向かいます。

昼食は、JR難波駅の上に立つOCATビルの屋上ガーデンで。食後、全員写真です。写る時だけはマスクを外すことにしましたが、タイミングが一寸ずれたようです。

昼食後立ち寄ったのは、難波八坂神社、大國主神社、木津卸売市場、  
今宮戎神社、通天閣・新世界。



今宮戎では1月のお祭の賑わいが衝撃的なだけに思いがけない閑寂さに驚き、  
新世界では巨大なフグ提灯の看板が無くなった事に一抹の寂しさを感じたものです。



そして統国寺には、ベルリンから移設されたあの「壁」がありました。もっと分厚いものと思っていたのですが、こちらが西ドイツに面していて、奥側にもう1面同じ形の壁が立っていたのだそうです。世界にひび割れが拡大する今、この壁のすさんだ表面が、分断された国々の哀しみをひしひしと伝えているように思われました。

最後の見学は大阪市の体験型防災学習施設「阿倍野タスカル」です。  
まことにユーモアあふれるネーミング、そしてマークです。



まずは震度7の揺れの体験です。  
強い音響、揺れている画像を見ながら  
激しい揺れに耐えます。  
手すりを握る手にも力が入ります。  
カメラも思わずブレてしまいました。  
展示と体験は、減災、消火、救護、避難、支援  
など多岐にわたりますが、身に迫って感じられたのは「がれきの町」(余震体験)でした。

震度7の地震で大阪の町はどうなるのか？  
地震に遭った町を想定して作られていました。  
崩れかけた民家、傾いた電柱、散乱する瓦や  
ブロック、時々火花を発する電線、屋根から  
落ちかけたエアコン室外機、倒れてガソリンの  
洩れているバイク……………。  
被災のありさまを実感させるとともに、様々な  
次の危険が潜んでいる事が実感できました。



見学を終え、15時半に解散しました。

\* \* \* \* \*

いつもながらの蛇足・補足で失礼します。

### 1 阿弥陀が池

阿弥陀が池は高名な落語の噺でもあります。一部を抜粋するとこんな感じです。  
ある晩和光寺に賊が押し入ります。尼僧にピストルを突きつけ「金を出せ」と凄みます。  
ところが尼僧は落ち着き払って胸をはだけ、「過ぎし日露の戦いに私の夫山本大尉は、乳  
の下心臓を撃ち抜かれて名誉の戦死を遂げられた。同じ死ぬなら夫と同じ所を撃たれて死  
にたい。さあ、誤たずここを撃て」と賊に言い放ちます。  
これを聞いた賊は、尼僧に向かって平伏し、「私は山本大尉殿の部下で、大尉は命の恩人  
とも言うべきお方。その恩人の奥様の所へ押し入るとはまことに無礼の段、平に御免」と  
言うなり、ピストルをこめかみに当てて自殺しようとしています。が、尼僧はそれを押し止め  
て賊を諭します。「おまえは根っからの悪人ではない。誰かが行けとそそのかしたのであ  
らう。誰が行けと言うた？」すると賊が答えます。「へえ、**阿弥陀が行け(=池)**と言  
いました」これが最初の落ちで、噺はまだまだ続くのですが、この場はこれまで。  
この噺は日露の戦いが出てくるように、明治39年に初演されたものだそうです。  
You Tube で桂枝雀さんの熱演などを試聴する事も出来ます。

### 2 大地震 両川口 津浪記 (だいじしん りょうかわぐち つなみき) の碑



大正橋東詰め舗道に高さ2m程の石碑が建てられています。  
大阪市文化財「大地震 両川口 津浪記」の碑です。

「大地震」とは、1854(嘉永7・安政元)年の「安政東海地震、  
安政南海地震」の事です。(地震発生時の年号は嘉永で、安政への  
改元は地震の後11月27日ですが、この地震が改元のきっかけに  
なった事などから、「安政地震」と総称されています)

「両川口」とはこの地を挟んで大阪湾に流れ込んでいた木津川と  
安治川(あじがわ)の事です。こんなことが書かれています。

「11月4日午前8時頃に大きな地震が起きた。空き地に小屋を懸け、また年寄子供は、多くは小舟に乗りこんで避難していた。ところが翌日午後4時頃再び大地震が起き、家々は崩れ火災が発生、収まったかと思うと、雷のような音が響き、日暮れ頃津波が押し寄せてきた。安治川はもちろん木津川は特に激しく、山のような大波が立ち、両川筋に居合わせた大小多数の船の碇綱は切れ、川筋をさかのぼり、多くの橋を押し崩してしまった。溢れた水に逃げ惑い落ち込む人もあった。川岸に作った小屋は大船に押し潰され、その轟音や人々の声、助ける事もならず、水死する人、怪我する者 夥しかった。安政の今から顧みて148年昔、宝永4年(1707)の大地震の時も、小舟に乗って津波で溺れ死んだ人が多かったと云う。年月が過ぎ隔たると、伝え聞く人は稀になり、同じ所でまた犠牲が出てしまった」として、「大地震の時、絶対に船に乗ってはならない」と戒め、次のように結んでいます。「追悼の為、ありのままを、拙い文章だが記しておく。心ある人は、年々碑の文字が読み易いよう墨を入れ、伝えていって欲しい」津波の翌年1855(安政2)年7月に有志の手で建てられたこの石碑には、毎年地藏盆の時に、地元の方々の手で墨が入れられているという事です。

1854年の安政南海地震の津波は、あの「稲むらの火」でも知られた津波です。碑文にあるその昔の宝永地震も、148年後のこの安政南海地震も、南海トラフの引き起こした地震といわれています。南海トラフ地震は私たちにとっても喫緊の課題です。周期は100~200年とも、またマグニチュードM8~9クラスの地震が、30年以内に70~80%の確率で起きるともされています。

「大地震両川口津浪記」の碑の文字は、今も私たちに警鐘を鳴らし続けているのです。

## ご案内

旧友会員の方、職員の方、入会大歓迎です。メンバーはおよそ50名です。入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、**毎月第4日曜日**に歩いています。現在はコロナ対応のため、事前予約制にしています。

- 今後の予定
- 10月 葛城山で森林浴を楽しむ(大阪・奈良)
  - 11月 京都トレイル第4回 銀閣寺前から比叡山まで(京都)
  - 12月 納会(大阪)
    - 1月 燦歩会500回記念行事 第1回の白毫寺を訪ねる(奈良)
    - 2月 燦歩会500回記念行事 浪花文學散歩と懇親会(大阪)
    - 3月 粉河寺と華岡青洲の里を訪ねる(和歌山 青春18切符利用)

参加ご希望の方は、会務担当山村恵一にご連絡下さい。

( 電話：090-1484-4403、メール：y-yamamura@ares.eonet.ne.jp )  
一緒に気軽に楽しく歩きましょう。(写真・文 生島 幸弥)